令和 元 年度　　（別紙2）

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070300647
法人名	有限会社　八起
事業所名	グループホーム新池
所在地	福岡県北九州市戸畑区新池3丁目3-19
自己評価作成日	令和元年10月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社　アーバン・マトリックス　福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	令和1年11月6日	評価結果確定日	令和2年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

長年、代表、管理者、役員は、この地域の住民であり、代表以外の自宅は、ホームに隣接した同じ敷地にあるので、地域に根差した介護事業が可能です。また、職員も地域住民が多く、明るく元気で、入居者とのコミュニケーションも円滑で、いつも笑いが絶えません。入居者の残りの時間を、、その人らしく楽しく健康で過ごせるようにしていきたいと思っています。
介護度が上がった方でも、当ホームにて看取ることができ、家族の負担を軽減できるよう、、主治医、看護師と共に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

幹線道路沿いにある2階建ての2階部分に位置する1ユニットの事業所は、開設して16年目を迎える歴史を持つ。法人役員及び管理者・職員の多くが地元住民でもあり、前代表者は現在、自治会長の役を担っている。地域の伝統行事や盆踊りへの参加、困難事例への対応等、関係者との連携を図りながら、地域との根付いた関係性を積み重ねている。終の棲家としての役割にも向き合い、生活感あふれる住環境の中で、日常の変化に対応しながら個別の暮らしの継続を支援している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：25,26,27）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：20,40）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：40）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：38,39）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：32,33）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
64	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：30）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている （参考項目：9,10,21）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,22）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている （参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
68	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月一回の会議以外の時でも、情報交換をし、理念を共有している。	開設時に作成された理念は一部見直しが行われ、コンプライアンス確保の視点が加えられている。日常の中で意識できるように携行している職員もおり、実践へとつなげる取り組みがある。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	代表、管理者、役員、職員5名が地域住民であり、役員は地域の自治会長も努めているため、民生委員との連携が取れている。	法人役員及び職員ともに近隣地域在住者が多く、永年の根付いた関係性が築かれている。地域の伝統行事である戸畑祇園山笠見物や盆踊り参加、神社の祭事等に参加し、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣住民の相談に応じ認知症の理解などに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業活動状況の報告と共に困難事例を相談し、話し合っている。 職員との情報共有においてサービス向上につながっている。	家族や複数の地域の民生委員、自治会長、地域包括支援センター担当者等の出席を得て、運営推進会議を2ヶ月に1回、開催している。運営状況や行事予定、ヒヤリハット等を報告し、地域情報を共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護課や地域包括センターとも継続した相談が構築できており、ケアサービス向上につながっている。	運営推進会議には、地域包括支援センター担当者の出席を得ており、事業所の実状を共有し、開かれた運営に努めている。毎月、生活保護課担当者の来訪もあり、情報共有と連携を図っている。また、社会的な課題である職員不足について、窓口での意見交換等、働きかけを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	従業員より不審者目撃情報があったため、1階フロアに全く人がいないときは、安全のため施錠を行っています。拘束の研修を外部を踏まえて、内部にて実施しているが、利用者の安全を守るために拘束がどうしても必要な場合は、手順を守って行っている。	身体的拘束の適正化に向けた指針の作成や研修実施、委員会活動等を通じて、現状のケアの振り返りと職員の意識向上に努めている。身体的拘束のみならず、対応やドラッグロック等についても意識を高め、医師との連携のもと服薬調整を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修を踏まえて、内部でも研修を実施している。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を踏まえて、内部でも研修を実施している。 カンファレンス時や、面会時に家族と話している。家族のいない利用者は本人と話している。	現在、権利擁護に関する制度を活用している方はいないが、資料を整備し、職員会議の中で学ぶ機会を確保する等、必要時に活用できる体制づくりに取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表もしくは、管理者と役員1名、ケアマネージャの計3人による説明をし、理解、納得を得ている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談箱を設置して、外部への連絡先を掲示している。 利用料支払時や、面会時において、ケアマネージャや管理者が声をかけている。	キーパーソン不在の入居者の方もおり、生活保護課等との情報共有と連携に努めている。食事の希望や嗜好品の摂取、晩酌の継続等、普段の会話の中から入居者の希望を聴き取り、医師との連携や職員会議の中での協議と周知を経て、個別の暮らしの継続に結び付けている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	一ヶ月の会議以外でも代表、管理者が個々の意見や提案を反映させている。	職員全員参加を基本とする定例会を開催し、業務や個別ケアの改善について、意見交換を行っている。止むを得ず出席できない職員には、情報共有の徹底に向けて指導を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修時には、手当を付け、資格試験時には勤務形態を変更し残業がないようにしている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	資格がなくてもやる気のある人であれば、性別、年齢に関係なく採用している。	職員の採用にあたり、年齢や性別等による排除は行われていない。現在、職員体制は安定しており、有給休暇の取得や資格取得に向けたサポートを行い、働きやすさや自己実現に向けた配慮に努めている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部、内部の研修を受けている。 また、マニュアルにて会議などで話している。	高齢者虐待防止や権利擁護、ハラスメント対策等の研修を年間計画の中に位置付け、職員への人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の意思を踏まえ、研修を受けるようにしている。 ただし、現状の勤務状況、職員の入れ替わりが殆どないことにより、研修の受講数は減少している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に数回の交流、勉強会に職員と共に参加し、交流があり、サービスの質の向上が出来ている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	代表、管理者、ケアマネージャが連携をし、個別に居室にて話を聞いている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時間が少なく職員と会えない時等は、電話等にて話し合っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族と本人の要望が一致していない時には、一定期間観察をし、後日理解してもらえるよう説明をしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者との関係は対等であることを自覚し、うまく関係を築いている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話で利用者の変化を連絡して話し合っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人等の面会は随時可能で、外食など、昔なじみのところへ行っている。 ホームでの飲酒もドクターと家族との相談の上、体調に配慮しつつ行っている。	地元から入居されている方も多く、伝統行事である戸畑祇園山笠見物や盆踊り参加等、地域行事に参加する機会も多い。携帯電話の使用に向けたサポートや晩酌の継続等、関係者との連携も図りながら、関係性や生活習慣の継続を支援している。	

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の意思を尊重しつつ、なるべくホールにて一緒に過ごすようにし、相互関係が保てるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されても洗濯、日用品の補充等の援助をし、退去者への家族への暑中見舞い、年賀状を送付している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思決定のできる入居者においては、本人本位の希望、意向は把握できている。 また、本人の認知度が上がっている場合、家族とともに話し合いを十分にしている。	日常の会話や表情の変化、行動等から推し測り、職員間での検討を行いながら、思いや意向の把握に努めている。また、関係者との情報共有を図りながら、日常生活に反映できるよう取り組んでいる。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別の生活歴に配慮しつつ、集団生活に馴染んでいけるよう援助している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の介護日誌や業務日誌で把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスには職員も参加し、家族と本人と共に話し合っている。 本人、家族の要望により随時変更を検討し、ケアプランに活かしている。	本人、家族の意向を踏まえ、各種帳票の作成や定期的なカンファレンス・モニタリング等を通じて、現状に即した計画作成や見直しの必要性について検討されている。	日常の申し送りや連絡ノートの更なる活用等、情報共有のあり方について、職員個々の意識向上が期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌で情報を共有し、計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の生活歴による馴染の飲食店等に同伴し昔話を傾聴している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公園や地域でのふれあい交流会へ連れていき社会との関係を保ち、民生委員との連携も取れている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療を受けられるよう支援している。 同意された主治医との連携により検査、入院が可能。（ペースメーカー等の受診者1名）	これまでのかかりつけ医の継続受診や協力医による訪問診療等、意向やニーズに応じて、適切な医療が受けられるよう支援している。看護師の配置もあり、看護記録が個別にファイリングされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師が1週間に2回、計3時間勤務をし、問題があれば随時連絡報告し、指示を受けている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との連携が改善されている。情報交換も家族だけでなくホームともとれている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時より、ターミナルケアの依頼書を家族と話し合いながら作成している。	入居時より、重度化した場合や終末期のあり方について、指針をもとに事業所としての方針を説明し、意向確認及び依頼書の作成を行っている。状況の変化に伴い、その都度の意向確認や関係者との話し合いを重ね、看取りを支援した経緯もある。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を受けている。マニュアル配布をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防火訓練をしている。 消防団、消防署が5分以内のところにある。会社関係1件と近隣住民とも連携がとれている。	各種災害に対応するマニュアルを整備し、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。消防署や地域消防団が近接しており、シーツを用いた搬送訓練も実施されている。宿直職員もおり、近在の役員・職員も含め迅速な対応が可能である。	
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	親しみを持ちながら、人格を尊重した言葉かけをしている。 笑顔が見られるよう、反応の無い方にも声掛けをしている。	地域性を共有しながら、1ユニットの家庭的な生活空間の中で、距離感の近い関係性が築かれている。管理者は、家族や他者から見てどう思うか等の問いかけを行いながら、現状を振り返る機会を持ち、職員への指導に努めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が外出するとき、ほかの利用者にも声掛けをし、リハビリも本人の自己決定を考慮している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の表情等に留意し希望に沿い支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の衛生面に留意し、希望に沿い支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事をとても楽しみにしている。自立者による片付けや下ごしらえの野菜の皮むき等は、職員との関係づくりに役立っている。 味付けは普通にし、量により塩分を調整し、おいしく食べてもらえるようにしている。	地域の米穀店や食材業者を活用しながら、法人代表者自ら調理を行う機会もある。入居者も包丁を持ち、野菜の皮むきや後片付けに力を発揮してもらっている。管理栄養士による献立を基本とするが、毎月1日は赤飯を準備し、リクエストや嗜好品の摂取にも柔軟に対応している。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護日誌に記録し定期的血液検査や体重管理をしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯等、口腔状態に留意し問題があれば受診している。予防として歯磨き粉は歯周病対応のものを使用している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の個々の体力、自立度に応じ、支援している。 パットを通気性の良いものにし、緩下剤使用時には頻回のトイレ使用をし、夜間ポータブルを使用している。	排泄パターンに応じた声掛けや誘導、立ち上がり訓練の実施等により、トイレでの排泄を基本として自立に向けた支援に努めている。食材の工夫や水分量の確保、腹部マッサージ等により、便秘予防にも努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の食品を取り水分補給や、看護師の指示による腹部のマッサージを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週4日の入浴日があり、入居者の体調希望により変更し対応している。 個々に沿った支援をしているが入浴拒否が稀にある。	基本的な週4回の入浴スケジュールを設定しているが、希望や状況、体調等に応じて、シャワー浴も含めて、柔軟な対応に努めている。菖蒲湯等の季節湯を楽しむ機会もある。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	目の具合に合わせカーテン等で部屋を暗くし、昼寝をしていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療ノート等にて服薬の変更を共有している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ゴミ出し、食器拭き、洗濯物をたたむ等、職員と共にしている。それぞれの仕事を自ら進んで協力している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとに外出し（希望者）花を見ながらお茶をし、買い物をする。家族と買い物やお寺へお参りをしている。 地域や家族と協力しながらできている。	地域の伝統行事である戸畑祇園や盆踊り、神社の祭事等に出掛ける機会がある。また、家族との外食に出かける方もおられる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自立入居者にはお金を渡し、好みの買い物をしていただいている。 食べたいものがあれば、職員と共に出かけている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望により、家族のライフスタイルに合わせ、電話をしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間作りに工夫している。 排便時にはにおいを消すようにしている。 節分や節句のときいは、雛人形や五月人形など季節に合わせたものを飾るようにしている。	既存の建物を活用し、2階部分に1ユニットの事業所は位置している。季節の飾りつけや愛猫の存在が、日常の癒しとなっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	エレベーター前で外を眺められるよう椅子を置いている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	地震時、危険と思われるものは使用しないこととしている。また行動がうまく取れるように空間を作り、馴染のものを使用している。	居室には、テレビや仏壇等が持ち込まれており、動線や配置を工夫し、リスク軽減に努めている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの方向を示すものを作り、階段には策を付け、エレベーターを使用して1階へ降りるようにしている。		